



平成 25 年 9 月 9 日
アンジェス MG 株式会社

当社 CIN 治療ワクチンの意義について

当社は、CIN 治療ワクチン（子宮頸部前がん治療ワクチン）の開発を進めておりますが、すでに上市されている子宮頸がんワクチンの予防接種による副作用がこれまでも一部報道にて取沙汰されており、また今月には「子宮頸がんワクチン接種後に学校生活に影響のあった女子生徒が、昨年度全国で 171 人いた」という文部科学省による学校調査結果の発表が報道されています。当社の CIN 治療ワクチンと一部新聞報道されている子宮頸がんワクチンの違いについて、引き続きステークホルダーおよび株主の皆様方から多くのご質問を頂いておりますので、改めてご説明いたします。

子宮頸がんワクチンは、子宮頸がん原因ウイルスであるヒトパピローマウイルス（HPV）の感染を抑えて子宮頸がんの発症を防ぐことを目的とした筋肉注射による HPV 感染予防ワクチンです。この予防ワクチンは 2009 年に日本で承認され、推計では 300 万人以上の方々が接種され、2013 年 4 月から、小学 6 年生から高校 1 年生の女子を対象に予防接種法に基づく定期接種となりました。その後、強い痛みや歩行障害などの重い副作用の報告事例を受けて厚生労働省は、本年 6 月に定期接種を積極的に勧奨するのを一時的に差し控えることと発表しました。

当社が開発する CIN 治療ワクチンは、子宮頸部の HPV 感染細胞を選択的に除去することで、子宮頸がんの前がん病変を解消させることが期待できる経口治療薬です。この治療効果により、子宮頸がんの前がん状態からがん化への移行を防ぎ、さらに子宮頸部円錐切除手術を回避することができる世界初の経口投与治療ワクチンです。この手術を回避することで出産を控えた女性の早産、低出生体重および帝王切開のリスクが解消されることが期待されます。

子宮頸がんの患者様の数は、20 代後半から増えていき 40 代以降は概ね横ばいになるとされていましたが、最近では特に若い年齢層（20～39 歳）の患者数が増えていると報告されています。当社は、CIN 治療ワクチンの製品化を目指し、今後、さらに探索的臨床試験を進めることで、本治療ワクチンの有効性と安全性を確認して参ります。

以上